

第1回紀の国森づくり基金運営委員会議事録

開催日時：平成21年10月27日（火）
15:00～16:00

開催場所：県自治会館 305会議室

第1回紀の国森づくり基金運営委員会

1 開催日時：平成21年10月27日（15:00～16:00）

2 開催場所：県自治会館 3階 305会議室

3 出席委員：

■■■■■■	委員

計 6 名

4 県関係出席者：

農林水産部長	下林 茂文
農林水産部技監	谷関 俊男
(森林・林業局長事務取扱)	
林業振興課長	澤野 誠
森林整備課長	辻 和信
(兼全国植樹祭準備室長)	
山村整備課長	中尾 俊二
林業振興課副課長	吉田 周一郎
林業振興課総括課長補佐	千郷 優
調整班長	大久保 充
調整班 主任	森川 直博

第 1 回紀の国森づくり基金運営委員会議事録

日 時：平成 21 年 10 月 27 日（火）15:00～16:00

場 所：県自治会館 305 会議室

事務局

○新任委員の紹介

○委員の任期満了に伴う委員の選任により、委員長、副委員長について、委員の互選により選出した結果、現在までの■■■■委員長、■■■■副委員長により継続されることで各委員の承認を得る。（紀の国森づくり基金運営委員会設置要綱第 3 条）

議長

■■■■でございます。

本来でございますと、もうお断りするつもりでございましたけども、中々そういうことが許される状況ではございませんので、微力ではございますけども引き続き、委員長を務めさせていただきますので、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

本日の議事録署名委員を私の方から指名させていただきます。

■■■■委員と■■■■委員にお願いしたいと思います。

それでは、早速ではございますけども議事に入らせていただきます。

本日は、「その他」を入れまして 2 件の議事がございます。

まず一番目の平成 20 年度紀の国森づくり基金活用事業の事後検証及び今後の活用方法についてをご審議いただきたいと思います。

では、最初に事務局の方からご説明いただけますか。

林業振興課長

今日は 20 年度の現地の方へ行っていただいて、誠にご苦勞様でございました。遠いところでは本宮町の方まで行っていただいて、非常に遠路ありがとうございます。

さて、平成 20 年度の実績の概要につきまして、私の方からご説明いたします。

お手元の資料の 2 ページをお開き願います。平成 20 年度の紀の国森づくり基金活用事業の実績の概要を載せてございます

平成 20 年度は公募事業で民間団体及び市町村合わせまして、143,352 千円、県が取り組む施策としまして、27,070 千円を合計 170,423 千円の実績額となっております。

続きまして、3 ページ目をお開き願いたいと思います。

公募事業につきましては、2 回の公募を実施いたしました。その結果としまして、77 件 152,400 千円弱の補助金交付決定を行いました。最終

事業実施の実績といたしましては、143,352 千円となっております。事業内容の変更または廃止等がありまして、若干金額の方が下がっております。

分野別に見ますと、「森とあそぶ・まなぶ」は、39 件の 28,374 千円。だいたい 2 割弱。「森をつくる・まもる」は、47 件で 95,174 千円。率にしますと 66 %、3 分の 2 が「森をまもる」となっております。また、「森をいかす」は 15 件で 19,526 千円。「提起」は 1 件で 278 千円となっております。

また、団体、市町村別に見てみますと、その下にもございますように、「NPO 法人」で 11 件の 11,721 千円。「その他任意団体等」が 41 件で 41,318 千円。「市町村」では、上限額等一般の団体との規模の違いもありまして、25 件で 90,313 千円となっております。全体の 3 分の 2 を占めてございます。次のページ以降に個別の表を載せていますので、またご覧をいただきたいと思っております。

また、2 ページ目に戻っていただきまして、公募事業の一環でございます。県の取り組む施策といたしまして、森林景観づくり、普及啓発、緑育・森林体験学習ですね、特にその辺に力を入れておりますが、あと花粉症対策等で約 27,000 千円を支出しております。

平成 20 年度の概要は以上でございますが、平成 21 年度の公募事業の採択結果等を 6 ページ以降にまとめさせていただいておりますので、またよろしくお願ひしたいと思っております。

以上で平成 20 年度の実績についての概要をご説明申し上げます。
よろしくお願ひします。

議長

それでは、先程のご説明についてのご意見、ご質問等、よろしくお願ひしたいと思っております。

何かございませんか。

では、特にご質問はないようですので、一応確認していただいたということで。

それでは、今日、お忙しい中で、現地視察をしていただいておりますので、その報告等をお願いいたします。

大久保班長

それでは、当局の方から、午前中から委員の皆様には視察していただきまして、評価シートを提出していただいておりますので、それについて概要をまとめまして、当局の方から説明させていただきます。

午前中から紀北地域で 3 カ所、それから紀南地域で 2 カ所視察をしていただきました。

まず、紀北地域の 1 カ所目でございますけれども、「隅田地区開発対策委

員会」というところが実施しました、「丸高山周辺整備事業」でございます。

この事業は、橋本市隅田町の丸高稲荷神社という神社の境内地周辺の荒れた山の整備ということです。

内容につきましては、雑木の伐採、植栽等をしまして、その荒れた山の危険を除去して、子ども達の森に親しむ遊び場を提供するというを目的として、地元の地区の方が行った事業でございます。

この事業につきましては、公益性につきましては、「非常に高い」という評価でございます。それから投資効果につきましても、「費用に見合った効果がある」ということでございます。それから予算の内容につきましても「概ね妥当である」と、県民への普及、県民の理解、それから県民の参画ということについても「概ね良好」であったということでございます。

続きまして、紀北地域の2カ所目でございますが、「有田市」が実施いたしました、「有田市熊野古道周辺森林等整備事業」でございます。

この事業は有田市の糸我町と宮原町というところにおいて、それぞれ糸我地区においては、放置竹林の伐採、それから柵の設置。それから宮原地区におきましては、東屋、テーブル、ベンチの設置を実施しています。これによりまして熊野古道周辺を訪れる方々を癒していこうという事業でございます。これにつきましては、有田市の方から地元の糸我地区の糸我愛郷会、宮原地区の宮原愛郷会というところに委託し実施されています。

こちらの方の事業につきましては、公益性については、「高い」。それから投資効果につきましても「高い」という評価をいただいております。それから予算の内容、県民への普及、県民の理解につきましても「妥当である」、「PR効果は高い」、それから「十分理解されている」というような評価でございます。県民の参画につきましても、それぞれの地域で愛郷会の皆さんが参加されたということで、「県民の参画があった」と評価をいただいております。

続きまして、紀北の3カ所目でございますけれども、「水軒の浜に松を植える」会という団体が実施しました、「水軒の浜の松林を再生する事業」でございます。

これは、和歌山市の西浜水軒地区において、埋め立てによって失われた松林を再生しようとする事業でございます。20年度は、草刈りや雑木の伐採、地ごしらえをしまして、その上で抵抗性マツの植栽等を実施しています。

この事業につきましては、公益性につきましては、「高い」という評価をいただいております。投資効果につきましても、「費用に見合った効果がある」という評価をいただいております。それから予算の内容については、「妥当である」、それから県民への普及については、「PR効果が高い」、県民の理解、県民の参画ということについても、十分な評価をいただいております。水軒の浜の事業は以上でございます。

続きまして、紀南地域の方の事業に移らせていただきます。

1カ所目は、こちらは事業が2つございまして、田辺市本宮町本宮地内におきまして、大日山の地すべり対策事業を行った所でございますが、そちらの方の事業地に植栽をいたしまして、世界遺産周辺にふさわしい景観を復旧していこうという事業でございますが、こちらについては、まず県の直営事業といたしまして、その植栽のための地盤改良を行っています。その上で、「君が育てる熊野の森協議会」という協議会が、こちらのほうは、本宮行政局とか西牟婁の建設部とか小中学校が入った協議会ですけれども、そちらの協議会が植栽をしているという事業でございます。

こちらの事業では公益性は「高い」という評価をいただいております。それから投資効果につきましても、「高い効果がある」と評価をいただいております。和歌山らしい特色のある事業という点につきましても、「特色のある事業である」という意見と「やや特色のある事業である」ということでございます。それから予算の内容につきましても、「妥当である」。PR効果につきましても、「非常に高い」と「高い」というような評価をいただいております。それから県民の理解も「理解されている」ということで、県民の参画についても「多数の参加があった」という評価をいただいております。

最後になりますけれども、御坊市の「明神川区」が行いました、「御坊市明神川区里山保全整備事業」でございます。

こちらの方は、竹林の伐採等の整備、あとは松林の整備の2つの事業で里山の整備を行っています。

こちらの方につきましても、公益性につきましても、「中位」という評価でございます。投資効果につきましても「高い効果がある」というのと「費用に見合った効果がある」ということでございます。それから予算の内容については「妥当である」。それからPR効果については、「高い」という評価と「やや低い」ということです。それから県民の理解については「理解されていた」という評価、それから県民の参画については、地元区民が協力されているということで、「多数の参加があった」との評価でございます。

以上、本日視察していただいた概要でございます。

ありがとうございました。

以上で事務局からの説明が終わりましたが、お忙しい中、委員各位におかれましては、それぞれ現地視察をしていただいておりますので、何か今の報告も踏まえて感想なりご意見ございましたらお願いしたいと思います。

■ 委員さん、何か口火を切っていただけませんか。

議長

委員

本宮町でやってるのは、大工事でしたが、私が当初考えていた、想像していたよりも非常に大工事で、あそこへ小中学生が行って、植樹するというのは、将来子ども達にとっては、非常に大きな教育効果があるんじゃないかと思いました。

それから明神川の件については、竹林を整備して、チップで堆肥を作っている。何かあの空き地へ植えられないかなと感じたんで、あのままだったら草が生えてきて、せっかく綺麗になっているのにまた翌年整備しなければならぬ。面積も小さいので何か植えたらどうかなとちょっと思いました。

議長

ここは、竹林を伐採しただけで、何か植樹はしていないのですか。

委員

してないですね。

それと歩道も階段にしてあげたほうが子ども達にとっては、危なくないと思う。あのままだったらちょっと滑る可能性があるんじゃないか。ただその辺に用材がなかったからね。竹林だから。どこかにそういう間伐材でもあれば、何か所かに入れておいてやったら、子ども達が竹の子掘りに来ると言っていたから、その安全性を確保する観点から植樹と歩道整備をすればという感じがしました。

■さん何かないですか。

議長

■さんは紀南のほうへ行かれたんですか。

委員

はい。

議長

何か感想をお願いしたいと思います。

委員

その空いているところですが、自治会長さんに質問したら、何か植えようかとも思うんだけど、竹を伐採し整理するときに邪魔になると言っていました。その辺がそんなに竹って大きいものなのか、あそこまで全部空けておかなければいけないのかなというのと、機械を入れるとおっしゃって、竹をチップに小さくして肥料にして土の中に戻していこうという発想は、よかったと思うんだけど、機械をリースで借りてきた時の敷地として必要かなと。その辺がどうなのでしょうかね。

ただ今回見させてもらったのは、最初の場所とあまりにも規模がすごく違って、ちょっと初めての経験なので戸惑いました。

最初に行った所は、大規模な山を地すべり対策した中での植樹で、子ども達が植えるということで、すごい事業の所を見せられて、ちょっとびっくりして、そしたら今度行った所は、自治会長さんが見えられて、子ども達を中心に竹ということで、勉強になったかなと。でも初めてのことな

のでこういう事業自体が素晴らしいことだと思うし、自治会、子供会とかそういう地元の人がしていってくれるということが、自分が喜びを感じたところでした。

議長

ありがとうございました。

■■■委員さんと■■■委員さんは紀北ですか。

それでは、■■■委員さんから。

■■■委員

はい。私は有田市の熊野古道周辺整備ということで、熊野古道のそばの山口王子という所に東屋を建てられて、熊野古道は土曜と日曜に人が多いということですが、東屋を建てるということがこの事業で紀州材を使ってやるということですけども、副次的に観光面にも貢献しているなあと、1つの投資で2つの効果を上げてるなということ、非常に良かったんじゃないかと思って見させてもらってきました。特にそこが印象的でした。

議長

■■■委員さん何かご感想は。

■■■委員

比較的、今回はどこも力が入っているかなと思われる3カ所だったかなと思うんですけども、割と子どもさんを使って和歌山市内の方でも西浜中学校が植樹して、そして1本1本の木の横にその願いとかを込めた札を立ててという形で、結構地域を挙げてやっているのがいいかなというのと、隅田地区の方では山を整備している地域の人がいるということで、小学校の卒業記念植樹をその地域の人が綺麗にしている山で行った、という形で地域とも連携をとれたり、子ども達にそういうことができてるのかなと。有田の事業も熊野古道ということで、すごく来てくれる人を歓迎しようという形で、ちょっとでも良さをアピールしたいという思いが強く感じられたので、すごく力が入っているなということを感じました。

議長

みなさんそれぞれ視察をしていただきまして、概ねよく頑張っていると、所定の効果を上げているのではないかとということで評価いただいておりますが、何か付け加えることはございますか。

■■■委員

先程言われたみたいに、もし植樹したらどうかとか、視察したときなりに感じたら、予算の中で使えばよいというものではないですが、気づいたときに補助的にその申請を出した後でも、こういうことを出来ないかというような付け加える予算とかは、今度こっちから申請できないのですかね。とちょっと思うんですけど。もしそういう時にここをもうちょっとこうしたらというのが出来るのならもう少し予算を付けるよという形で出来ないか。

議長 この辺りの当局としてのお考えは？

林業振興課長 それは、可能だと思います。市の担当者も振興局の担当者もその辺はしっかり見てくれているとは思いますが、多分明神川の場合は、下で作業を
していて、■■■さんも言われましたように、竹のチップを置いて、下ろして
きた竹を整理している作業用地だと思うのです。そういうことからすると、
中々植えることは出来なかったんだと思います。■■■委員さんが言われた
ように、そういう申請が出てきた場合には、かなりきめ細かい指導をして
いますので気づいたことがあったら、ここは少ないとかもっとこうしなさい
とかいうのも合わせて、今後とも指導していきたいと思っています。

農林水産部長 今少し話しをしていたのですが。
独断でこちらが■■■委員が言うように、じゃあやろうよと予算的にもある、
という話も事務局サイドで勝手にという訳にもいきませんので、委員会
との絡みもありますので、どんな仕組みにするかですね。

議長 そうですね。その辺の仕組みが。

■■■委員 委員長、副委員長に一任でも。

農林水産部長 そういう形を取らせていただければね。

■■■委員 委員長、副委員長に決めていただいて、後はこういうふうに決め
ましたよというように。

議長 委員会をいちいち開くという訳にもいきませんのでね、機動性が
必要ですから。

■■■委員 それでいいんじゃないですか。

農林水産部長 あまり大きな額になってくれば、それはまた次年度ということ
もありますし、例えば2割くらいまでの増減であれば、委員長、副委員長
と相談してという形を取らせていただいてもよろしいでしょうかね。

各委員 はい。異議なし。

議長 話が全体的な事業推進になってきていますので、視察の話を踏まえな
がら、これからの事業全般についても、20年度の実績の中でここを改善
したらいいのではないかと、そういう全体的なご意見がありましたら意見
をお願いしたいと思います。今、■■■委員さんがおっしゃったような、事

業推進に絡む色々なご意見がありましたらよろしく申し上げます。

今回は市町村の実施した事業というのはなかったんですか？視察の対象に入っていないのですか。

森川主任

有田市の分はそうです。

議長

今までの実績から見て、市町村がやっているのをしっかり見てほしいなと思ったので。有田市の方は力が入っていたということですね。

林業振興課長

有田市は、糸我と宮原の2地区で同じような整備をやっているのですが、有田市が一本化するということで申請が出てきています。それぞれの地区に委託をして、事業をされていますのでそういう点で受託された地区の方が力を入れているという印象が非常に強いと思います。

委員

愛郷会ということですか。これは印象ですけど今日は3地区回らせていただいて、非常にお年寄りががんばってくれているなど、中心になってやってくれてるなというふうに感心して帰ってきました。

議長

何か他にございませんか、お気づきの点はございませんか。

関連すると思いますので、次の議題ですね。これからの基金活用事業の議題に入りまして、そこでまたご意見を頂戴したいと思います。

それでは、議事の2番目のこれからの基金活用について、事務局から説明をお願いして、それを踏まえて議論をお願いしたいと思います。

それではよろしく申し上げます。

林業振興課長

それでは、恐れ入ります。10ページの方をお開き下さい。

10ページの方に紀の国森づくり基金を活用した全国植樹祭への支援ということで、本県では平成23年春に天皇・皇后両陛下をお招きいたしまして「第62回全国植樹祭」を開催する予定となっております。本県で2回目になります。

この本県での全国植樹祭の開催理念は、「木の国恵みの森を創ろう」と題しまして、本県の自然条件と県民の暮らしを創りあげてきました、豊かで多様な「木の国恵みの森」を県民全体で「守り、活かし、学び、伝え」ながら未来に繋げていくこととしております。まさしくそのことは、紀の国森づくり基金条例の理念でもあります。

実際の開催会場につきましては、田辺市の新庄総合公園を式典の本会場といたしまして開催するとともに、大会機運を高めていくために、県民の森づくりへの意識の高揚を図るため、県内各地、原則といたしまして各市

町村に1カ所ずつ、市町村が主体となりました「市・町・村民の森」を創設していきたいと考えてございます。

ついては、この「市・町・村民の森」づくりは、この紀の国森づくり基金の趣旨に合致した事業と考えてございます。それに位置づけ、それらに関する経費の支援をこの基金から行いたいと考えてございます。使い途は主にまさしく森づくり、その各地域で行われる森づくりに関する整備費用でございます。

なお、本事業につきましては、植樹場所や植栽樹種等の決定に関しまして、県民の参画や森づくりへの意識を向上させるという意味もございまして、市民の合意形成を図るために、地域住民や有識者等により組織します「市民の森創作委員会」を設置しまして、その事業内容等をそこで議論して決定していきたいと考えてございます。なお、このことにつきましては、22年度から本格的にスタートするわけなんですけれども、本年度の予算の方から活用してスタートしていきたいと考えてございます。

以上でございます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

議長

はい、ありがとうございました。

ただ今の説明、これからの基金の使い方ということで、植樹祭に向けて活用していきたいということですが、何かご意見ございましょうか。

よろしゅうございますか。ご意見ないですか。

では、その方向で活用していくということでよろしゅうございますか。

(各委員うなずく)

一応、本日の主な議題は以上でございまして、あとその他でございまして、これにつきまして、当局の方からご説明申し上げます。

大久保班長

それでは当局の方から今後のスケジュールにつきまして、ご説明させていただきますと思います。次回の運営委員会の開催につきまして、11月終わりか12月初めぐらいに第2回目の基金運営委員会を開催させていただきたいと思っております。

その内容につきましては、平成22年度の税を使った基金事業の予算、それから22年度の公募事業の実施の方法についてご審議いただきたいと思います。

22年度分の公募事業につきましては、12月の中下旬ぐらいから1月末までを応募期間として、応募があったものについて、事前の調査期間を十分時間を持たしていただいて実施させていただき、そして3月の下旬に3回目の運営委員会を開催して22年度分の審査をお願いしたい。こうい

うふうに考えてございます。

また、次回の運営委員会の日程につきましては、後ほど当局の方から皆様方にご連絡させていただいて、調整させていただきたいと思えます。

以上です。

議長

これからの運営委員会の進め方、スケジュールについて、ご説明がありましたが、何かご意見なりご要望がございますか。

2回目が11月末、若しくは12月初めということですね。

3月の下旬に3回目の運営委員会をやりたいということでございますが、大体そういうスケジュールでよろしゅうございますか。本日は特に具体的に次回の第1候補、第2候補という日を設定していませんか。後ほど調整でよろしいですね。

委員

時間的なものは、今日のように1日の会議じゃないのでしょうか。

議長

通常の運営委員会は、2時間ぐらいだと思います。

委員

わかりました。

林業振興課長

委員長、その他という訳ではないんですけども、以前、この基金の活用方法として、公的森林の管理を進めるということで、トラストですが、和歌山県として残しておくべき森林を買っていきこうという活用方法を前回認めていただいております。本年度その骨子を固めてございます。できれば、予定候補地を絞りまして今年から市町村を通じて買ってもらいたいと。そういう未来永劫残していくべき豊かな森林を購入して伐採等から保全しようということで購入に当たりたい。

候補地は何点かあるんですけど、実際に決まりましたら、この委員会にお諮りしたいと思えますが、できれば県立自然公園になるようなそういう森林を買っていけたらなと思っております。

現在事務局の方で、その買うための要領、要綱について詰めているところでございます。またその段階が来ましたら委員会を開催し、委員の皆様にご審議をお願いしたい。どちらにしましても、こういう森林を買いますということは、やはり皆様方のご審議を得てから、実際買うということになるわけです。できれば今年中にそれを1件でもしていきたいと思っております。

議長

具体的には、第2回目、第3回目とありますけども、大体予定としては、第3回目ぐらいですか。出てきそうなのは。

林業振興課長 | できれば第2回目ぐらいでしたいですけども、相手があることですから。

議長 | という報告でございますので、次回に順調に進むとそのトラストの話も出てくるということでご予定いただきたいと思います。
他に何か。

技監 | すみません。補足的に申し上げるんですけども、植樹祭で各地にという話があったんですが、今現在、和歌山なりの森づくりというのが大切だと思っておりますので、今までも1、2回やったんですけど、子ども達に参加してもらって、山の苗を採って育てている。この秋も計画していますが、子ども達やできればおじいちゃん達も一緒になって苗を採る、それを林業試験場などで育てていく、あるいは、各学校で竹ポットに入れて育ててもらおうと。そういうものをもって各地域の市町村なりの森づくりをしてもらおうと、本当にそういう意味でも樹種から言っても、ふるさとの森づくりというふうな形で出来たらなということで今進めています。

議長 | 何か当局の方から、その他に連絡事項のようなものがありませんか、せっかくの機会ですから。
特にございませんか。

ないようでございますので、本日の委員会をこれで終了したいと思います。
視察された皆様、朝から大変ご苦労様でしたありがとうございました。

(閉 会)